

1 学校教育目標 本校の綱領「礼節」「勤労」「進取」の精神を念頭に、全職員一体となって愛情と信頼を基調とした教育を実践し、心豊かで調和のとれた社会に貢献できる人材の育成を図る。 教育スローガン「磨き 鍛えん 青春の志高く」
--

2 本年度の重点目標 熊本県教育委員会から示された「平成30年度県立中学校・高等学校における教育指導の重点」の趣旨に沿い、全職員が一丸となり、本校定時制に学ぶ生徒たちの現状を踏まえ、以下の項目の実現に努める。 ①出席率の向上 ②就労率の向上 ③授業改革・基礎学力の向上 ④生徒指導の徹底・基本的生活習慣の確立 ⑤進路指導の充実・自己実現 ⑥学校行事の活性化 ⑦校務改革・生徒と向き合う時間の確保・多忙化解消
--

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校経営方針	本年度の重点目標の達成	全職員が目標を共有し、全ての目標において前年度実績を上回る。出席率と就労率は共に7割以上を目指す。	全職員が生徒の状況を適切に把握し、保護者の協力を得ながら出席率の向上に向けて生徒を励ます。また、就学の意味および中途退学に伴う不利益等について機会ある毎に諭す。	A	【成果】重点目標の達成に向けて全職員一丸となって取り組んだ結果、出席率は前年度を上回り、就労率も概ね7割となった。 【課題】若干名ではあるが、年度途中で他校に転学した生徒や、当初から学校に登校できないままの生徒に有効な対策をとることができなかったことが課題として残った。
		保護者との連携	秀麗会総会等の各種行事への保護者の参加率を5割以上にする。	日頃から保護者との連絡を密に取ることで、保護者との連携を強化し、保護者が各種行事へ参加しやすい環境づくりに努める。	C	【成果】担任を中心にこまめに面談を繰り返すなどの連携をとり、学校と家庭の意思疎通を図ることができた。 【課題】行事案内をできるだけ早めに行ったが、秀麗会総会をはじめ各種行事への参加率は5割を超えなかった。
	教員の資質向上	教科指導力・生徒指導力及び進路指導力の向上	生徒の実態に応じた指導力を身に付けることで、3つの観点において、生徒の満足度が9割以上になることを目指す。	教科指導力向上については、生徒が「学ぶ意義」をより一層感じる授業づくりを進め、公開授業を積極的に行う。生徒指導については、毎週生徒状況連絡会を開き、情報共有と共通実践を行う。進路指導については、進学説明会等に積極的に参加し、全教育活動を進路指導の充実に繋げる。	A	【成果】ICT機器の活用や全日制の授業参観を行うなど、授業改善に向けて意欲的に取り組み、生徒の授業アンケートにおいても満足度が9割を超えた。 【課題】新学習指導要領の実施に向けて、より一層「主体的、対話的で深い学び」を実現するための授業づくりと、学習評価の在り方についての研究を深めていく必要がある。
		不祥事の根絶	職員の不祥事0。	年間計画に沿って不祥事防止研修を実施する。また、悩み事等を相談しやすい雰囲気作りを進め、風通しのよい職場づくりに努める。	A	【成果】概ね計画に沿って研修を実施し、不祥事を防止できた。 【課題】特に、交通事故に遭遇するリスクは依然として高いため、引き続き事故防止の意識を高めていく必要がある。

学力向上	学習習慣の確立	授業を受ける姿勢の更なる改善	授業中の態度改善、及び遅刻する生徒数の昨年度比減を目指す。	生徒情報を職員間で共有し、共通理解を図る。また内規や取り決め事項を厳格に適用する。	A	【成果】繰り返しの指導や説諭の結果、授業中の態度については格段に改善し、遅刻者も大幅に減少した。内規によってペナルティーを科すような事象もほとんど見られなかった。 【課題】今後も生徒との信頼関係を維持しつつ、授業中の態度の向上を図る。内規や取り決め事項に関しては年度ごとに再確認し、全職員で共通認識を図る。
		学習習慣および学習意欲の向上と主体的に学ぶ態度の育成	課題テストの成績向上を目指す。また、総合的な学習の時間を活用して主体的に学ぶ姿勢を育てる。	課題テストを年間6回実施し、テスト問題の質の向上と、課題への取り組みに関する指導の充実を図り、学習意欲と主体性を高める指導を工夫する。	A	【成果】課題考査が定着し、定期的な学習の機会が学校生活の中に位置づけられるようになった。総合的な学習の時間ではほとんどの生徒が意欲的に参加できている。 【課題】課題考査に限らずにさらに意欲的に学習に取り組むように働きかけを続けることが大切である。
学力向上	学習成績の向上	欠点保持者数及び欠点科目数の昨年比減を図る。	授業改革を推進し、分かりやすい授業の展開や教材・教具の工夫を図る。		A	【成果】公開授業や授業実践報告会の実施等を通じて、生徒が学ぶ意義を感じとることができるわかりやすい授業づくりに取り組んだ。欠点については保持者数、科目数ともに大幅に減少した。 【課題】組織的な取り組みの推進と継続を図ることが課題である。
		生徒の能力や可能性を引き出す	生徒理解の深化と個に応じた指導を展開する。	生徒のニーズや進路目標等を適切に把握し、必要な指導を個別に実施する。	A	【成果】毎週1回の生徒情報連絡会や、学期ごとの成績会議をはじめ、生徒理解を図るための取り組みをとおして、生徒理解を深め、課題等を共有し対応につなげることができた。 【課題】一人ひとりの進路希望に即して、より一層きめこまかな対応を組織的にこなうことができるよう工夫が必要である。
キャリア教育(進路指導)	進路意識の向上	職業観・勤労観の育成	働くことの意味や尊さについての理解を深めさせ、できるだけ早期の進路目標設定を目指す。	外部講師による進路講話や校内学習を通じて、望ましい職業観・勤労観の育成に資する教育活動の機会を数多く設ける。	A	【成果】各学期に1回の進路講話や企業見学を通して職業観や勤労観への意識が向上できた。 【課題】進路に関する課題が学年によって違うため、それぞれの課題に即した対応が必要である。
		社会性と自立心の育成	進学に向けた学習を重視する生徒を考慮し、生徒の就労率は短期ア	服装や言葉遣い等を含めた接遇マナーの向上を図る。また、ハローワークとの連携の下、面接指導を	A	【成果】生徒指導部と連携を取りながら、服装等のマナー指導を行った。また、外部講師を招聘して面接指導や社会人とし

			アルバイトを含め7割台を目指す。	行いながら、就労支援を行う。		てのマナーについて指導の機会を設けたことで、生徒のマナーアップにつながった。 【課題】進学の子供への指導が行き届いていない部分があり、職員間での対応策を考えていく必要がある。
	進路保障	進学・就職の決定	卒業予定者全員の進路先決定を目指す。	ライフプランニングや職業講話等で知識を学び、課題テスト等を通して基礎学力を身に付け、実力を発揮して内定や合格を獲得する。	D	【成果】各学期の課題考査において、就職や進学の試験に対応できる基礎学力が身につけてきた。 【課題】生徒の進路意識を高めるため、保護者との進路情報の共有を図るなど、協力体制を強化していく必要がある。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	学校生活充実度を向上	出席率を高め、遅刻や早退を減らす。	意欲的に学校生活を送ることができるよう、日々のホームルームにおける正副担任指導の工夫や、全職員による声掛けや励ましを行う。また、家庭との連携を密にとる。	B	【成果】登校指導やHR等での担任を中心とした継続指導により、多くの生徒が安定した学校生活を送ることができた。 【課題】数名の生徒が進路変更し、体調を崩して長期欠席となった生徒も見られた。小まめな面談や生徒情報連絡会等での情報共有をふまえて、全職員が生徒一人ひとりに目を向けて指導の改善をすすめていく必要がある。
	生徒会活動及び学校行事の活性化	自己肯定感の高揚	行事等への取り組みによる成功体験を積むことで、自己肯定感を高める。	生徒が主体的に生徒会行事を立案・実施する機会を設け、教師はサポートに徹する。また、保護者・同窓会・地域との連携により、生徒を認め、褒めてもらう機会を増やす。	A	【成果】第1回「人定祭」開催をはじめ、生徒会役員の主体性を引き出しながらしっかりサポートできた。生徒の活動内容も充実・発展し、自己肯定感の高揚につながったと考えている。 【課題】限られた時間の中で、生徒会活動と学業を無理なく両立させられるよう、役員会の在り方や考査期間中の時間活用の在り方などを工夫する必要がある。
人権教育の推進	人権尊重の姿勢	人権を尊重する態度の改善	職員及び生徒ともに人権を尊重した姿勢が見られるようにする。	職員及び生徒の意識向上を図るため、年間計画に沿った職員研修および講演会等を実施する。	B	【成果】職員及び生徒とともに、研修後の感想や学校評価アンケートの結果に人権尊重の姿勢が伺われた。 【課題】全ての職員が人権教育に関する見識を広げられるよう、学校外で行われる研修への参加体制を見直す。
	命を大切に育む指導	生命を尊重する意識の高まり	自他の生命を大切にできる態度や行動が見られるようにする。	教科指導をはじめとして、すべての教育活動において生命の大切さについて考える機会を設ける。	A	【成果】学校評価アンケートの結果から、各教科において生命尊重に関する指導が工夫されていることが伺われた。 【課題】生命を尊重する行動を、高校生にふさわしい形で実現する力の育

						成に向けてより一層の工夫を行う。
いじめの防止等	生徒の状況把握と いじめの早期発見	いじめの根絶と情報の共有	いじめの兆候が見られた場合は、迅速かつ適切に対応し、解消率を100%とする。	アンケート調査、生徒状況連絡会等を通して、いじめの兆候を早い段階で把握できるよう生徒状況把握に努める。	A	【成果】アンケート調査や今年度から導入されたいじめ通報アプリの活用によるいじめの申し出等はゼロであった。 【課題】いじめゼロの状況に慢心することなく、引き続き生徒の些細な変化を見逃さず、いじめの兆候を敏感に捉えることができる体制を維持・向上させる。
	いじめの未然防止	心のきずなを深める取組の充実	互いに尊重し合う気持ちや態度を持ち、互いを思いやり信頼し合える関係を構築する。	ストレス対処教育プログラムに沿った授業を実施するとともに、「人定いじめゼロ宣言」を主体的に守るよう指導する。	B	【成果】生徒会による「人定いじめゼロ宣言」を毎学期当初に行うとともに、全校一斉LHRで「ストレス対処教育」を実施した。 【課題】少人数ならではのアットホームな学校づくりをより一層すすめ、人間関係トラブルの原因とされる「言いたいことが言えない」、「言ったことを聞き入れてもらえない」という状況が生じないようにしていく。
地域連携 (コミュニティ・スクールなど)	防災型コミュニティ・スクールの推進による地域との連携体制の構築	防災教育の充実	生徒の防災意識を高め、災害発生時に果たすべき役割の重要性について認識を深める。	学校防災年間計画に沿った防災教育を着実に進める。	A	【成果】定時制の課題に合わせた防災避難訓練を実施することができた。また、蓄光テープや懐中電灯を設置するなど設備面でも改善を図った。 【課題】生徒・職員が危機管理意識を保ち、必要な情報を収集・共有し、さらなる課題に向き合っていく必要がある。
		地域や関連機関との連携の推進	防災拠点としての学校の役割をより一層明確化し、災害時に備えた体制整備を進める。	学校運営協議会を計画的に開催し、防災拠点として求められる役割の確立に向けた課題解決に取り組む。	A	【成果】学校運営協議会において地域との連携を密に取ることができた。 【課題】災害発生時の対応など、さらに詳細を確認する必要がある。特に避難所運営等を想定した対応策については改善する余地が多い。
校務改革	校務の効率化	業務の改善	生徒と向き合う時間を確保する。	悩み事等が相談しやすく、風通しのよい職場環境づくりを進め、職員が一人で課題を抱え込まないよう、互いに業務遂行状況を把握し合いながら、チームとして業務に取り組む。また、業務内容の精査と、作業の効率化に向けた工夫を行う。	A	【成果】分掌ごとに情報交換・情報共有を適宜行いながら、順調に業務遂行ができたので、生徒と向き合う時間をしっかりと確保できた。 【課題】特定の職員に業務が集中しすぎたり、担当職員が不在で代替がきかず業務が滞ったりしたこともあった。役割分担等、分掌業務遂行体制の見直しが必要である。

4 学校関係者評価

1 学校評価表（自己評価）の内容や評価は適切であるか。

- (1) 学校教育目標について
- ・ 綱領を基に、生徒に寄り添い全てを伸ばしてやりたい気概を感じるとても適切な目標である。
 - ・ 重点目標も、生徒の現状に即した適切な内容である。
 - ・ 学校教育目標に沿って、校長が全日制、定時制、五木分校それぞれにあわせた具体的目標を設定し、入学式以降、積極的に取り組まれているのがよい。
 - ・ 綱領「礼節」「勤労」「進取」の精神は人吉高校の伝統であり、素晴らしい教育目標である。
- (2) 学校評価の内容や方法について
- ・ 全日制、定時制、五木分校とも統一され、数値化してあるので、比較が容易である。また、内容も適切なものになっている。
 - ・ 見てすぐにわかる工夫がされている。
 - ・ アンケートの設問、結果の考察がとても見やすい。また、自己評価総括表の成果と課題も、とてもわかりやすかった。
- (3) 学校評価の結果について
- ・ 自己評価総括表の内容が昨年と今年と一部内容が相違するところがあるが、昨年より良い結果である。先生方の熱心な指導の表れである。課題もあるが、これからの指導で改善できると思う。
 - ・ 具体的方策で、良い成果が出ていると思う。残された課題、大変だと思うが、目標に近づけるよう頑張してほしい。

2 教育活動・その他の学校運営の改善に向けた取組について。

- (1) 学校経営について
- ・ 人口がますます減少していくなか、生徒数の確保が大変だと思うが、可能な限りの広報活動も必要だと思う。秀麗会の総会、各種行事の参加率を上げるため、講演などと組み合わせる方法もあるかと思う。出席率、就労率の向上は先生方の指導の成果が表れている。これからも継続してほしい。
 - ・ 転学生徒への対応も丁寧にしてもらった。中学校側としても、しっかり受け止め、進路指導をはじめ、生徒指導、学習指導等を充実させていきたい。
 - ・ 定時制については、転学や中途退学についてどのように評価してよいかとても難しく感じている。外部講師として何度か指導をしたことがあるが、生徒にどこまで求めてよいかわからなかった。
 - ・ 学校経営方針、教員の資質向上としては、それなりに成果が出ている。経営として、もう少し「人吉高校定時制」として広報活動があっても良いのではないか。
- (2) 学力向上について
- ・ 学習習慣の確立、学力の向上については、アンケートの数値で高い評価が出ている。就労して疲れている状況の中、生徒はよく頑張っている。課題も提示されているが、よりよい工夫、取組をお願いしたい。
 - ・ 個別指導、授業改革等により、かなりの成果が上がっているようで大変ありがたい。欠点保持者数等の大幅減少、特に素晴らしい。
 - ・ 欠点者の減少、素晴らしい。学校の熱意を感じる。
 - ・ 基礎学力の向上を目指し、より一層、きめ細やかな対応が必要だと思う
- (3) キャリア教育（進路指導）について
- ・ 課題はあるが高い評価になっている。一人一人に対応した結果と推測できる。就職、進学に挑む基礎学力が向上してきたことはとても喜ばしい。アンケートによると、生徒2～4名がC評価を示しているが、低学年であることに起因しているのかもしれない。これからも指導をお願いしたい。また、保護者との情報共有は必須である。
 - ・ 個別対応を丁寧にしていただいている様子、ありがたく思っている。
 - ・ 生徒のキャリア発達支援を進めることが、教育重点目標の向上につながると思う。また、生徒全員の進路保障を是非ともお願いしたい。
- (4) 生徒指導について
- ・ 個々、それぞれ良い方向に向かうよう指導され、安定した学校生活が送れるようになったことが評価できる。生徒が主となつての「人定祭」開催、そして成功したことは、連帯意識と物事に挑む自信につながったと思う。進路変更はやむを得ないと思うが、退学者が出ないよう指導をお願いしたい。社会に出てからの資格取得の際の大事な学歴となります。
 - ・ 進路変更生徒等、中学校としてもさらに進路決定の際の指導等をしっかりと行っていきたい。
 - ・ 褒めてもらう機会を増やす指導方針、いいですね。今の若者に一番欠けているのは、成功体験だそうです。是非続けてほしい。
 - ・ 「自己肯定感の高揚」に向けた「人定祭」の取組、とても素晴らしい行事だと思います。続けていってください。
- (5) 人権教育の推進について
- ・ 先生、生徒、保護者とも真剣に取り組んでおられ、高い評点で適切である。相手を思いやり、自分を大切にすることを育む指導をこれからもよろしくお願いしたい。
 - ・ 生徒、職員共に、人権の尊重、また命を大切にすることを育ててほしい。
- (6) いじめの防止等について
- ・ いじめは近年増加しているとの報道があるが、生徒、先生の評価は「いじめが皆無」と高評価

である。働きながら学ぶ共通の意識を持つ者同士、相手を思いやり、尊重し合う心があるからだと推察できる。一方、保護者の評価が少し悪いが、無関心または自分には関係ないと思っているのか、気になる。

- ・いじめの防止等について、生徒の評価は良いが、保護者の評価の低さが気になる。質問のあり方の改善も含めた検討をお願いしたい。
- ・少人数、いじめゼロに関係なく、生徒の変化を見逃さず、いじめの兆候を敏感に捉えることができる体制を維持してほしい。

(7) 地域連携（コミュニティースクールなど）について

- ・近年、自然災害が多くなっている。実際に停電させて防災訓練を実施しており、定時制の課題にあわせた適切な取組となっている。
- ・今後ますます防災型コミュニティースクールの推進による地域との連携体制は重要で、皆が防災意識を高めることが大切である。

(8) 校務改革について

- ・先生方が、問題点を提起し合い、共有しながらさらに改善を進めてほしい。また、超過勤務があれば、解消に向けた方策をとってほしい。
- ・業務改善は必要なことで、皆が協力して頑張してほしい。

3 その他

- ・夜間の登下校時に交通事故に遭わないよう、起こさないよう、交通ルールの遵守指導等をお願いしたい。
- ・中学校卒業生が、いろいろとご心配ご迷惑をおかけすることも多々あることと思っておりますが、丁寧に指導していただいていることに感謝している。
- ・定時制については、特に、保護者や生徒の就労先との連携を密に図ってほしい。
- ・新聞記事等で紹介された「人定祭」の様子、生き生きとした生徒さんの姿から、皆さんの努力と達成感が伝わってきた。

5 総合評価

(1) 学校経営について

職員と保護者の意識の差が見られる面があるなど、保護者との連携の面で課題が残った。また、教育活動の情報発信についても、積極性がなかった。

(2) 学力向上について

就労との両立を図りながら、授業態度や成績面での大きな改善が見られた。

(3) キャリア教育（進路指導）について

進路講演会の実施や上級学校のオープンスクールへの参加を促し、低学年からの進路意識高揚を図り、進路意識調査にその成果が見られるようになった。しかし、本年度の卒業予定者全員の進路決定に至らなかった。

(4) 生徒指導について

生徒に寄り添い、生徒の自信や自己肯定感を高めるための指導を全職員一丸となって実践することができた。第一回「人定祭」を生徒主体で実施することができたのも、成果の一つといえる。

(5) 人権教育の推進について

全職員が校外研修に参加する機会を得られなかった。人権教育の指導力向上のためには、OJTだけでなく、Off-JTの機会を確保する必要がある。

(6) いじめの防止等について

生徒の些細な変化も見逃さない姿勢と、生徒が相談しやすい雰囲気づくりを心がけながら、生徒に寄り添う教育活動を行うことができたため、いじめを未然に防止することができた。

(7) 地域連携（コミュニティースクールなど）について

定時制の状況に応じた防災避難訓練

(8) 校務改革について

特定の職員への過度に業務負担が集中していたことや、学校行事の精選が進んでいなかったことなどにより、生徒対応や授業準備の時間が不足する場面がみられた。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 学校経営について

【課題】保護者との連携と広報活動の充実

【方策】保護者会と学校行事を組み合わせ実施する等の工夫を行う。

また、ホームページ等を通じて、教育活動の様子を積極的に発信する。

(2) 学力向上について

【課題】生徒の成長をしっかりと把握しながら、さらなる指導の充実につなげる。

【方策】学習指導計画（シラバス）の整備と、評価方法の研究を行う。

(3) キャリア教育（進路指導）について

【課題】生徒の進路保障を確実にする。

【方策】職員の進路指導力向上を図るための研修を実施する。

(4) 生徒指導について

【課題】生徒に自信を持たせ、自己肯定感を一層高める。

【方策】生徒の頑張る姿の「見える化」に取り組み、できるだけ多くの人々から、生徒が褒めて

もらえる機会を設定する。

(5) 人権教育の推進について

【課題】教育実践の交流が進んでいない。

【方策】全職員が校外研修に参加する機会を設け、研修成果の復講等を通じて実践交流を図る。

(6) いじめの防止等について

【課題】「いじめ防止基本方針」等の周知・徹底を図る。

【方策】あらゆる機会を捉えて保護者に対し、学校のいじめ防止対応について紹介し、ホームページの閲覧を呼びかける。

(7) 地域連携（コミュニティースクールなど）について

【課題】地域住民等に教育活動の様子を知ってもらう。

【方策】「人定祭」などの学校行事に地域住民等への参加を呼びかける。

(8) 校務改革について

【課題】より一層生徒に寄り添い、生徒に向き合う時間を捻出する。

【方策】校務分掌改革と、学校行事の削減を進める。